

野生動物と出会おう！

—人と動物が出会うきっかけづくり—

| | | | |
|-----|--------------|--------------|--------------|
| | 代表者 | 東加奈子（農学M1年） | |
| 構成員 | 玉那覇彰子（農学M2年） | 迫田菜摘（農学B3年） | 杉原奈央子（農学B3年） |
| | | 中別府奈央（農学B3年） | 平塚貴大（農学B2年） |
| | | 松尾大輝（農学B2年） | 南川薫（農学B2年） |
| | | 浦田真帆（農学B2年） | 中野由布妃（農学B2年） |
| | | 松村奈実（農学B2年） | 服部久美子（外部参加者） |

1. 第2回イベントの開催とその報告

野生動物との出会いの感動・すばらしさを普段野生動物と関わる機会がない方々にも体験してもらいたい。という思いで始めたこのプロジェクトでしたが、2010年8月7日に開催された第1回目のイベントでは、小学生とご両親10家族、総勢24名が参加し、無事にイベントを終えることができました。内容はオリジナル巣箱を作成し森に設置に行きました。またそれとともに、森に住む生き物を探し、見つけた生き物をみんなで紹介しました。

第2回目のイベントは11月13日に開催されました。内容は設置した巣箱を生き物たちが利用しているかどうか、観察会を行いました。第1回目のイベントに参加した方々に第2回目のイベントのお知らせをしたところ、8割もの家族の方がまた参加したいと申し込みをしてくれました。うれしいことに、「1回目のイベントがとても楽しいイベントだったので、友達の家族も連れて行きたい。」「妹や弟も一緒に連れて行ってもよいですか。」とお友達やご家族で参加したいという問合せが多く、第2回のイベントでは第1回に比べ更に人数が増え、親子含めて合計26名の方々が参加されました。

学生スタッフは本番に向けて力を合わせて着々と準備を進めてゆきました。スタッフ全員、1回目の経験を生かし、どう工夫すれば良いイベントを作ることができるか案を出し合いました。1回目の経験と反省が2回目のイベントの計画にとても生かすことができました。そして迎えた本番は天候にも恵まれ第1回目と同様、大成功に終わりました。子供たちは変わらず元気に会場にやってきました。「久しぶりー！元気だった？」などスタッフは声をかけながら、再会を喜びました。そしていざ森へ出発したのですが、スタッフたちは不安に思っていたことがありました。それは野生動物たちが巣箱をちゃんと利用しているかです。巣箱が空っぽだったとしても子供たちはイベントを楽しんでくれるだろうか。巣箱の利用ばかりは、生き物たちの気まぐれですし、ありのまま受け止めてもらうしかありません。しかしこれが野生動物を調査するうえでの醍醐味で、出会えるかどうかわからないけど偶然、出会えた瞬間。その感動はとても大きいのです。そんな不安を他所に当日のイベントでは巣箱はいろんな生き物に使われていました。子供たちが待ちに望んだヒメネズミも巣箱の中から飛び出してきました。巣箱の中にはヒメネズミが小さな体で毎晩一生懸命運んだと思われる枯葉などでつくられる巣材がたくさん入っていました。

2. 代表者としておもプロでの活動を終えて

今回のおもプロのイベントで得られた経験はとても大きなものでした。チームとして仲間をリードしてゆく難しさ。イベントを安全に、円滑に行うためには事前準備がいかに大切であるかについて学びました。また同時に、人々に森やそこに生きる生き物たちのすばらしさを伝えることが、いかにやりがいがあり、すばらしいことかを学びました。たくさんの課題や困難がありましたが、21世紀の森のスタッフの服部さんをはじめ、一緒に協力しながら取り組むことができる、すばらしい仲間に出会えたこと。大学生活の中ではなかなか得られない、かけがえのないものを得ることができました。本当に活動を行って良かったと思いました。

「野生動物と出会おう！」代表 農学研究科2年 東加奈子

3. 代表者(企画者)と共にイベントを盛り上げ、支えてくれたスタッフの感想

今回のイベント開催にあたっては、それぞれのスタッフが各自の役割をふまえ、積極的にイベントを盛り上げてくれました。1人が欠けても、このイベントは成功しなかったと思います。本当はスタッフ12人全員の感想を載せたいところですが、ここではそれぞれの役職で活躍した人の感想を抜粋して載せたいと思います。

「イベントを終えて」

「どうぶつと出会おう！」というこのイベントは、発案から企画・運営まですべて、私たち学生が主導となって作り上げたイベントです。これまで参加者として数々のイベントに参加してきた私たちですが、企画・運営を行うのは全員が初めての経験で、参加者の集め方、広報の仕方、資料の作成、当日使用する物品の準備、イベントの内容、タイムスケジュールなどなど、当初は分からないことだらけでした。しかし、今回のイベントに共催として参加して下さった21世紀の森のスタッフである服部久美子さんに多くのご意見やアドバイスを伺うことで、最初は漠然としていたイベントが日を迫るごとに自分たちの手で形作られていき、期待とともに責任感も生まれてきました。

イベント自体は小学校低学年に合わせた内容なので、掲示物やスライド発表の文字をひらがなにしたり、スタッフが説明をするときは難しくない言葉で言い換えたりと工夫をしていましたが、私が特に気をつけたのは保護者のみなさんも一緒に楽しめるかということです。森の中で生き物や季節の植物を見つけた際は、子どもたちだけでなく保護者のみなさんにも近くで見てもらおうようにしたり、巣箱の中身や自動撮影カメラの説明の際は、子どもたちだけでなく保護者の皆さんにも伝わるように、視線や言葉遣いを工夫したりしました。一人の女の子の巣箱の中には実際にヒメネズミが1匹入っていたので、捕虫網で捕まえて参加者のみなさんに見せることができましたが、子どもたちだけでなく保護者のみなさんからも歓声があがり、私たちスタッフも含めある種の一体感が感じられ、とても嬉しい気持ちになりました。

今回のイベントを通して私がいちばん印象に残ったことは、親子の何気ないほのぼのとした一面を近くで垣間見れたことです。なにも特別なことではないのかもしれませんが、森の中で足場の悪いところではお母さんがお子さんの手を引いたり、巣箱の中身がよく見えるように抱きかかえてあげたり・・・他にも、お父さんが寒さを心配してお子さんに上着を着せてあげたり、巣箱を利用した生き物の様子についてお子さんと笑顔で話しあったりするなど、本当に何気ないやりとりがあたたかく、やさしく、見ている私までつい笑顔になるような場面が多くありました。参加者のみなさんは保護者も含め、私たちの手作りのイベントに確かに参加しており、一緒に楽しんでくれていると実感できる瞬間でした。

「どうぶつと出会おう！」のイベントは第1回、第2回ともに大成功に終わることができ、準備期間からイベントが終了した現在まで、とてもやりがいを感じた半年間でした。イベントの企画・運営は大変なこともありましたが、それゆえスタッフが仲良くなり、心が同じ方へ向かい、ひとつのことをやり遂げたという達成感も味わうことができました。幸せな時間を与えてくれた参加者とスタッフのみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。みなさんと一緒にどうぶつと出会えて、本当に楽しかったです。ありがとうございました！

農学研究科2年 玉那覇彰子

「イベントに参加して」

今回、活動主催者の東さんに声をかけていただき、「おもプロ 野生動物に出会おう！」に参加しました。今まであまり関わりのなかった人も参加しており、最初は少し緊張しましたが、みんなすぐに打ち解けて楽しく活動できました。

8月に行った初めてのイベントでは、要領がつかめず手探りで準備を進める状態でしたが、東さんと玉那覇さんの奮闘の末、準備を整えることができました。そして期待と不安を持ちつつ迎えた当日、メンバー全員とても緊張していましたが、元気いっぴいな子どもたちのおかげで緊張も次第に解れ、和気あいあいと活動することができました。イベントに参加していた子どもたちは、山の中の生き物にたいへん興味をもち、自然をたくさん発見してくれ、ほねの勉強会では、子どもたちはもちろん、保護者の方々も興味津々でタヌキやキツネの骨を触っていました。イベントの最後にとったアンケートには「楽しかった」「次もまた参加したい」など、うれしいコメントがたくさんあり、第二回のイベントもがんばろうという意欲になりました。

11月に行った第二回のイベントでは、第一回イベントの反省を生かしつつ、スムーズに準備を進めることができました。また、前回参加者のほとんどがリピーターになってくれており、第一回イベントが大成功だったと改めて実感することができました。第二回は第一回で取り付けた巣箱の回収がメインで、前回参加していなかった子どもたちが満足してくれるかが心配でしたが、他の子やスタッフが取り付けた巣箱と自動撮影カメラの

観察をして楽しんでいたのでよかったです。山の中では寒くなった影響もあり、前回よりも生き物は少なかったのですが、落ち葉や果実など秋の自然を発見してくれました。ほねの勉強会では、ケンタッキーフライドチキンを使って身近な骨を観察しようというものでしたが、大人も子どもも自分が食べたチキンが鶏のどの部分なのか一生懸命考えている様子はたいへんほほえましかったです。最後にお別れをするときには「ぜひ来年もやってほしい」とたくさん子どもたち、保護者の方々に言ってもらい、とても嬉しかったです。

学外の、しかも子どもたちと触れ合う機会はとても貴重な経験でした。この活動をきっかけに子どもたちが自然に興味をもってくれたら、と思って参加しましたが、山の中での彼らの観察力を見ていると、逆に教わる部分もたくさんありました。今回の活動は本当に新鮮で楽しいプロジェクトでした。今後もぜひ続けていきたい活動です。

獣医学科3年 迫田菜摘

「おもしろプロジェクトのイベントに関わって」

■やる気！元気！笑顔もらいました！

おもしろプロジェクトの学生達に混じって、一緒にイベントにスタッフ参加しました。

春から準備を進め、夏の山、そして秋の（冬準備の）山に入っの野生動物とのふれあい。

メンバー達はみなさん、動物大好き！そして、前向きに、このプロジェクトを成功させたい！という思いを、持っていると感じました。

私も仕事柄、子どもたちを呼ぶイベントを行うのですが、全員が「元気」があって、「やる気」満々だというのは、やはりスタッフ側も参加する側も、笑顔がよいなど実感します。今回のプロジェクトは、まさに、そんな「よい笑顔」のイベントだったように思います。

■下見のときでも・・・

そういった本気さは、下見の時にも表れていました。

「参加者に、動物や骨を好きになってもらうには、どんなクイズを出そうか考えていた」

それをきっかけに、メンバーの間で議論が巻き起こり、「それっておもしろいね！」など、アイデアも出てくる出てくる。

みんな本気でこのプロジェクトに取り組んでいるのだな、ということが実感でき、私も気を引き締めていかねば、と改めて思ったのを覚えています。

■続けていってほしい

私ども 21 世紀の森では、年間を通じて、自然を感じたい方や自然の中で遊びたい親子連れの方、登山をされる方がいらっっしゃいます。

このプロジェクトでは、「自然」という大きな枠は難しくても、「動物」に焦点をあてて深めることで子どもも楽しむことができ、そこから自然への興味の入り口をつくることができたのではないかと思います。

子どもの時に自然体験をした子は大きくなってもそれを大切にするという統計もあります。

イベントを親子参加型にしたことで、子どもも親も、安心でき、イベントに集中していました。さらにそれが、スタッフも一生懸命に取り組むイベントならなおさら、心に残る体験になったと思います。

ぜひ、今後とも、この活動を続けていってほしいと思いました。

今回一緒にできたことをうれしく思います！みなさんありがとう！

一般社団法人やまぐち里山文化研究所（21 世紀の森指定管理者） 服部 久美子



写真1 巣箱調査へ出発！



写真2 巣箱の中を確認



写真3 自動撮影カメラに写った動物(テン)

4. 最後に

今年度のおもしろプロジェクトに参加して、本当によかった。普段の大学生活では経験できないことを経験することができました。やりたいと思う気持ちを形にするには、時間やお金がかかります。成功するか失敗するかわからないけど、やってみる。その機会を提供してくださった山口大学に心から感謝致します。参加者一同